
小田原高等学校

グレート・ブックス・セミナー

平成 19 年 5 月 11 日 [金] 15:30~17:00

平成 19 年 6 月 8 日 [金] 15:30~17:00

平成 19 年 7 月 13 日 [金] 15:30~17:00

プラトン『メノン』

- 目 標：① 読書法と対話（ダイアローグ）形式に慣れる
② 「目に見えないもの」の価値を考える
③ 「未知のもの」を探究する可能性を考える

〔配布資料〕

- ・ 本の読み方：本を読むための4つのレベル
- ・ Great Ideas とは何か
- ・ リベラル・アーツ教育とグレート・ブックス
- ・ リベラル・アーツ教育と教養
- ・ 古典を読む「グレート・ブックス・セミナー」とは
- ・ セミナー参加に当たって注意してほしい事項
- ・ 「目に見えないもの」を考えるために読んでほしい本

本の読み方：本を読むための4つのレベル

(1) 初級読書 (Elementary Reading)

- ・ 子どもの読書法
- ・ 文脈をたどることができ、未知の単語の意味をつかむ技術を身につけ語彙を増やす。

(2) 点検読書 (Inspectional Reading)

Great Ideas とは何か

(1) 2つの idea の意味

- ・心の中に浮かんだ考えや漠然とした感じ, 空想, 意見, 印象, 思いつき → 主観的な内容

What is your idea? / I have no idea about that.

- ・議論することができる共通の思考の対象 → 客観的な対象物となる.

the idea of democracy

- *単なる言葉でもなく, 言葉のつながりでもなく, 人間の心の中であって, 人がよりよく生きる精神のよりどころとなって, 私たちが何をすべきかについて指針を与えてくれるもの.

(2) Great Ideas とは

- ・時代を超え, 世代を超えて議論の対象となるような, これ以上, 上位概念は考えられない idea.
- ・複合的で意味の広い包括的な概念であり, その内部に何層にもわたる主題や課題の構造を持つ.



「美德 (virtue)」を取り巻くアイディアスの銀河系

102 の Great Ideas

Angel, Animal, Aristocracy, Art, Astronomy, Beauty, Being, Cause, Chance, Change, Citizen, Constitution, Courage, Custom and Convention, Definition, Democracy, Desire, Dialectic, Duty, Education, Element, Emotion, Eternity, Evolution, Experience, Family, Fate, Form, God, Good and Evil, Government, Habit, Happiness, History, Honor, Hypothesis, Idea, Immortality, Induction, Infinity, Judgment, Justice, Knowledge, Labor, Language, Law, Liberty, Life and Death, Logic, Love, Man, Mathematics, Matter, Mechanics, Medicine, Memory and Imagination, Metaphysics, Mind, Monarchy, Nature, Necessity and Contingency, Oligarchy, One and Many, Opinion, Opposition, Philosophy, Physics, Pleasure and Pain, Poetry, Principle, Progress, Prophecy, Prudence, Punishment, Quality, Quantity, Reasoning, Relation, Religion, Revolution, Rhetoric, Same and Other, Science, Sense, Sign and Symbol, Sin, Slavery, Soul, Space, State, Temperance, Theology, Time, Truth, Tyranny, Universal and Particular, Virtue and Vice, War and Peace, Wealth, Will, Wisdom, World

参考：松田義幸他（1999）『グレート・ブックスとの対話』かながわ学術研究交流財団

リベラル・アーツ教育とグレート・ブックス

(1) リベラル・アーツ (自由学芸)

- ・個別領域のプロフェッショナルを育てる教育に対して、普遍的価値や普遍的問題を追及.
- ・何らかの実用的目的のため、利益のため、社会的機能を果たすための人間活動である「奴隷的学芸」に対して、「知ること」自身を目標とする学芸.
- ・諸学の基礎となるような原理的なものの見方、考え方を習得することを目標とし、すべての学問に共通する本質的事項の理解を推進するための基礎教育.

(2) グレート・ブックス

- ① 重要な概念や問題に本質的に触れるような内容を持ち、討論に値する本。
→議論の余地のない教科書や情報を提供するだけの本は除かれる。また、一連の知識を含んでいるが人間の精神に働きかけて熟考させたり、理解しようという意欲をかき立てないようなものも除かれる。
- ② 何度も繰り返し読む価値のある本。
- ③ 専門書ではなく、好奇心あふれる知的な素人にも理解できる本。
- ④ 人文・社会・自然科学のあらゆる分野から選ばれる本。
- ⑤ 作者の著名度や影響力は基準にならない。

グレート・ブックスは、単なる文化遺産ではなく、時代を超えて人々の精神に働きかけるものであり、何度も何度も限りなく読み返す価値のある本。

Great Books of the Western World (1952)

1.The Great Conversation; 2.The Syntopicon: An Index to the Great Ideas (Angel to Love); 3.The Syntopicon (Man to World); 4.Homer; 5.Aeschylus, Sophocles, Euripides, Aristophanes; 6.Herodotus, Thucydides; 7.Plato; 8.Aristotle (I); 9.Aristotle (II); 10.Hippocrates, Galen; 11.Euclid, Archimedes, Nicomachus; 12.Lucretius, Epictetus, Marcus Aurelius, Plotinus; 13.Virgil; 14.Plutarch; 15.Tacitus; 16.Ptolemy, Copernicus, Kepler; 17.Plotinus; 18.Augustine; 19.Thomas Aquinas (I); 20.Thomas Aquinas (II); 21.Dante, Chaucer; 22.Calvin; 23.Machiavelli, Hobbes; 24.Rabelais; 25.Erasmus, Montaigne; 26.Shakespeare (I); 27.Shakespeare (II); 28.Gilbert, Galileo, Harvey; 29.Cervantes; 30.Bacon; 31.Descartes, Spinoza; 32.Milton; 33.Pascal; 34.Newton, Huygens; 35.Locke, Berkeley, Hume; 36.Swift, Sterne; 37.Fielding; 38.Montesquieu, Rousseau; 39.Adam Smith; 40.Gibbon (I); 41.Gibbon (II); 42.Kant; 43.American State Papers, The Federalist, J.S.Mill; 44.Boswell; 45.Lavoisier, Fourier, Faraday; 46.Hegel; 47.Goethe; 48.Melville; 49.Darwin; 50.Marx, Engels; 51.Tolstoy; 52.Dostoyevsky; 53.William James; 54.Freud

リベラル・アーツ教育と教養

リベラル・アーツ

- ・自由7学芸
 - 基礎3科 (trivium) : 文法、弁証 (論理)、修辞——言葉に関する技
 - 4科 (quadrivium) : 代数、幾何、音楽、天文——自然を読み解く技
- ・個別領域のプロフェッショナルを育てる専門教育に対して、普遍的価値や普遍的問題を追及 (「具体」 ↔ 「抽象」、 「個別」 ↔ 「普遍」)
- ・民主主義の基礎、基本的人権としての生命・自由・幸福追求を考える手段
- ・リベラル・アーツとは諸学の基礎となるような原理的なものの見方、考え方を習得することを目標とし、すべての学問に共通する本質的事項の理解を推進するための基礎教育。

「余暇 (leisure)」の意味

- ・スコレー (skhole) とアスコリア (askholia)
- ・オーティウム (otium) とネゴティウム (negotium)
- ・テオリア (theoria) と contemplation (観想)

「真」「善」「美」——よく生きるために必要なもの

	know	truth	philosophy
	知識を求める存在	→ 真へのニーズ	→ 哲学
人間	do	goodness	ethics
	行動する存在	→ 善へのニーズ	→ 倫理学
	make	beauty	aesthetics
	作る存在	→ 美へのニーズ	→ 美学

Mortimer J. Adler. *Aristotle for Everybody*. Touchstone, 1978.

[邦訳, 下島連, 若林彰. みんなのアリストテレス. 日本ブリタニカ社. 1979.] より

天使と動物の間にある人間

- ・body without mind → もの (生物・物体) / mind without body → 天使 / body with mind → 人間
- ・精神の鏡であり、また、自己表現の媒体としての言語を大切にす

「教養」とは

- ・culture / cultivate
- ・自らを立てる、揺るがない自分を造り上げる、自分に対して則^{のり}を課し、その則^{のり}の下で行動できるだけの力をつけることに必要なものが「教養」(村上陽一郎『やりなおし教養講座』NTT出版)。
- ・特別の教育を受けたわけでもない人たちでも、自分の中にきちんとした規矩を持っていて、そこからはみ出したことはしないぞという生き方のできる人こそが、最も原理的な意味で教養のある人 (同上)。
- ・「いかに生きるか」への問いが「教養」の始まり (阿部謹也『「教養」とは何か』講談社現代新書)。
- ・精神の自由 / 常識や既存の考えを「なぜ」と疑う。

古典を読む「グレート・ブックス・セミナー」とは

- グレート・ブックス・セミナーは、良書・古典の言葉に学びながら、人類が大切にすべき普遍的価値について考える対話型のプログラムです。良書・古典を生活の中に取り入れ、それを人生の友とする習慣を育む機会となることを目的としています。さまざまな政治・経済現象のなかで、その現象面にとらわれることなく、問題の本質を正確にとらえ、理解するために、世界の古典・名著を読み解くことで、それぞれの仕事や人生に活かすことができることを目標とします。
- グレート・ブックス・セミナーの内容と手法は、アメリカの哲学者モーティマ・アドラー博士を中心に開発されました。近年、わが国でも教養教育の意義が見直され、その中でグレート・ブックス・セミナーがいろいろな方面から紹介されています。その先駆的存在として、かながわ学術研究交流財団（K-FACE）では、早くからこのグレート・ブックス・セミナーに着目し、この手法を取り入れた独自のプログラム開発に精力的に取り組んでいます。アメリカのオリジナル版を踏襲したセミナープログラムは、すでに K-FACE において実施されて高い評価を得、ユニークな広がりを見せています。
- 今、世の中にはたくさんの情報・書物が溢れていますが、「長い風雪に耐えて人々の心の支えとなってきた良書・古典をじっくりと読み、過去の賢者たちの思想を学び、いわば彼らの養子となってそこから十分にアドバイスを受け、人間、社会、自然が直面している難題に向かう」という読書の姿勢を、私たちはすっかり忘れていないでしょうか。このセミナーが、私たちの読書生活の質を見直し、生涯にわたり「古典のある生活」を習慣とするきっかけとなればと願っています。

セミナー参加に当たって注意してほしい事項

- グレート・ブックス・セミナーは哲学の講義ではありません。古典とよばれる名著を各参加者がじっくりと読んで、その読んだ内容に関して対話（ダイアログ）を行い、名著への理解を深め、ひいてはその人文学的教養を各自がものを考えていく上でのヒントにしようとするものです。まずは、テキストをじっくり読み、そこに何が書かれているかを正確に理解することがグレート・ブックス・セミナーの最初の目標です。その理解を深めるために参加者どうしのダイアログがあります。ですから、参加していただく場合には、テキストを徹底的に読みきつてくるといった十分な予習が必要となります。
- 古典・名著は、その性格上、批判的に難癖をつけてやろうという姿勢で読むのではなく、筆者の使う言葉、筆者の述べる内容を、正しく正確に理解しようとして、その上で、それに対しての自分の意見を述べる、という手順で接しなければなりません。そして、このセミナーでは、主体は参加者です。提起された課題を、自分の問題として考え、自分の言葉で、積極的に発言する姿勢でのぞんで下さい。また、他の人の発言にも敬意をはらい、きちんと耳を傾けるというルールを大切にして下さい。
- テキストやその著者の背景を知る参考書としては神奈川県立図書館編『入門グレート・ブックス』をお薦めします。県立図書館蔵の参考図書の紹介も詳しいので、より深い勉強や読書を広げるには最適の案内書です。また、グレート・ブックス・セミナーの歴史や意義、そして手法については松田義幸他著『グレート・ブックスとの対話』（かながわ学術研究交流財団）が参考になります（<http://k-face.org/gb/contents/cover.htm>）。

「目に見えないもの」を考えるために読んでほしい本

(読書とは時間と空間を越えた偉人との対話です)

- ・アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子さま』(翻訳多数)
- ・岩崎武雄『哲学のすすめ』(講談社現代新書)
- ・岩崎武雄『正しく考えるために』(講談社現代新書)
- ・小川洋子『博士の愛した数式』(新潮社)
- ・今道友信『西洋哲学史』(講談社学術文庫)
- ・今道友信『知の光を求めて』(中央公論新社)
- ・今道友信『出会いの輝き』(女子パウロ会)
- ・モーティマ・アドラー (稲垣良典訳)『天使とわれら』(講談社学術文庫)
- ・森有正『生きることと考えること』(講談社現代新書)
- ・稲垣良典『天使論序説』(講談社学術文庫)
- ・ヨゼフ・ピーパー (稲垣良典訳)『余暇と祝祭』(講談社学術文庫)
- ・プラトン『メノン』『ソクラテスの弁明』など (翻訳多数)
- ・パスカル『パンセ』(翻訳多数)